

1. 著 書

[1] 亀田弘行監修，萩原良巳・岡田憲夫・多々納裕一編著：総合防災学への道，京都大学学術出版会，2006。（分担執筆，pp.216-234 担当）

2. 論 文（査読付き）

[1] 榊原弘之，土屋哲，岡田憲夫，多々納裕一：不確実性を考慮した家屋の更新に関する意思決定過程のモデル分析，土木計画学研究・論文集，No.17, pp.401-410, 2000.

[2] 土屋哲，多々納裕一，岡田憲夫：空間応用一般均衡アプローチによる東海地震の警戒宣言時の交通規制に伴う経済損失の評価，地域安全学会論文集，No.5, pp.319-325, 2003.

[3] H. Tatano, H. Kamiya and S. Tsuchiya: Knowledge Acquisition Cost and Anti-seismic Mitigation Investment by Individual Households, IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics, Vol. 1, pp.1044-1049, 2004.

[4] 土屋哲，多々納裕一：SCGE モデルを用いた基幹交通網に関する地震リスクのパブリックマネジメント，社会技術研究論文集，Vol.2, pp.228-237, 2004.

[5] 土屋哲，多々納裕一，岡田憲夫：新潟県中越地震による経済被害の計量化の枠組み，土木計画学研究・論文集，Vol.23, pp.365-372, 2006.

[6] S. Tsuchiya, H. Tatano and N. Okada: Economic Loss Assessment due to Railroad and Highway Disruptions, Economic Systems Research, Vol.19, No.2, pp.147-162, 2007.

[7] 中野一慶，多々納裕一，藤見俊夫，梶谷義雄，土屋哲：2004年新潟県中越地震における産業部門の経済被害推計に関する研究，土木計画学研究・論文集，Vol.24, pp.289-298, 2007.

[8] H. Tatano and S. Tsuchiya: A Framework of Economic Seismic Loss Estimation for Transportation Network Disruption: A Spatial Computable General Equilibrium Approach, Journal of Natural Hazards Vol.44, pp.253-265, 2008.

[9] Q. M. Liang, S. Tsuchiya, H. Tatano, N. Okada and Y. M. Wei: An application of SCGE model to assess the labour and capital related economic loss in Nankai earthquake, International Journal of Risk Assessment and Management, Vol.8, No.4, pp.412-423, 2008.

[10] 土屋哲，多々納裕一，岡田憲夫：地震災害時のライフライン途絶が及ぼす経済被害の計量化に関する研究，地域安全学会論文集，No.10, pp.355-364, 2008.

[11] 川端光昭，松本昌二，佐野可寸志，土屋哲：地方集落におけるバス運営の自律型移行に対する受容意識と方略，社会技術研究論文集，Vol.7, pp.162-170, 2010.

[12] M. Kawabata, S. Matsumoto, K. Sano and S. Tsuchiya: Car Passenger Transport and Barriers to Community Bus Use in a Mountainous Underpopulated Region in Japan, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.8, pp.412-423, 2010.

[13] 藤武麻衣，佐野可寸志，土屋哲：野菜の地産地消の推進による CO2 排出削減量の計測，農村計画学会誌，第 30 巻，pp.303-308, 2011.11.

[14] 土屋哲，佐野可寸志：中山間地で移動販売車が担いうる社会サービスニーズに係る検討—長岡市山古志地域住民へのアンケート調査を通じて—，農村計画学会誌，第 30 巻，pp.273-278, 2011.11.

[15] 川端光昭，松本昌二，佐野可寸志，土屋哲：L R T・地方鉄道を対象とする表明選択法によるオプション価値測定とプロジェクト評価，土木学会論文集 D3（土木計画学）Vol.67, No.5（土木計画学研究・論文集 第 28 巻），pp.I_45-I_56, 2011.12.

[16] 川端光昭，佐野可寸志，土屋哲，松本昌二：住民主体のバス運営が非受益地域市民の公正感と支払意志額に

及ぼす影響, 土木学会論文集 D3 (土木計画学) Vol.67, No.5 (土木計画学研究・論文集 第 28 卷), pp.I_69-I_78, 2011.12.

- [17] 船瀬悠太, 多々納裕一, 土屋 哲: 港湾の機能停止の国際経済への影響分析手法: 空間的応用一般均衡アプローチ, 土木学会論文集 D3 (土木計画学) Vol.67 No.5 (土木計画学研究・論文集 28 卷), pp.243-254, 2011.12.
- [18] 藤武麻衣, 佐野可寸志, 土屋哲, 三本諒: 共分散構造分析を用いたノーマイカーデーへの参加意識の分析, 社会技術研究論文集, Vol.10, pp.65-74, 2013.4.
- [19] S. Tsuchiya, K. Tanimoto, C. Iwata and S. Hayashibara: A Fundamental Survey on Personal Mobility Needs in an Aging Society, Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.9, P32, 2013.9.
- [20] 土屋哲, 谷本圭志, 岩田千加良, 林原壮太: 中山間地域における高齢者のパーソナルモビリティニーズに係る調査・分析, 第 33 回交通工学研究発表会論文集, pp.473-476, 2013.9.
- [21] 倉持裕彌, 谷本圭志, 土屋哲: 中山間地における買い物支援に関する考察—移動販売に着目して—, 社会技術研究論文集, Vol.11, pp.33-43, 2014.4.
- [22] S. Tsuchiya, K. Tanimoto and T. Sakaguchi: Risk Assessment on Agricultural Products by Inter-regional Flow Estimation in Disaster, Proceedings for the 2014 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2014), P4, 2014.10.
- [23] 谷本圭志, 日高大希, 土屋哲: インフラ維持管理の人員削減に伴う社会的費用の評価に関する研究, 土木学会論文集 G (環境), Vol.70, No.6 (環境システム研究論文集 第 42 卷), pp.II_107-II_114, 2014.10.
- [24] 谷本圭志, 倉持裕彌, 土屋哲: 活動能力に着目した高齢者の買い物手段に関する考察—中山間地域を対象に—, 土木学会論文集 D3 (土木計画学) Vol.70 No.5 (土木計画学研究・論文第 31 卷), pp.781-788, 2014.12.
- [25] 倉持裕彌, 谷本圭志, 酒井裕規, 土屋哲: 官民の役割分担に着目した移動販売の持続可能性の改善に関する考察—中山間地域を対象として—, 運輸政策研究, Vol.18, No.2, pp.2-11, 2015.7.
- [26] 谷本圭志, 倉持裕彌, 土屋哲: 中山間地域における移動販売サービスの顧客層に関する実証分析, 都市計画論文集, Vol.50, No.3, pp.324-330, 2015.11.
- [27] 土屋哲, 谷本圭志, 倉持裕彌: 中山間地域における移動販売サービス開始初期の利用者特性分析, 農村計画学会論文集, Vol.34, 論文特集号, pp.225-230, 2015.11.
- [28] 谷本圭志, 土屋哲: 過疎地域における給油所の持続可能性に関する概略分析, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.32 (土木計画学研究・論文集 32 卷), pp.I_261-I_268, 2015.12.
- [29] 土屋哲, 谷本圭志: 賃走履歴データを用いたタクシー事業者の付随的サービスの供給可能性に関する分析, 第 36 回交通工学研究発表会, pp.1-6, 2016.
- [30] 土屋哲, 谷本圭志, 倉持裕彌: 移動販売サービスによる買い物環境の改善効果に関する研究—中山間地域における実証分析を通して—, 農村計画学会誌, Vol.35, 論文特集号, pp.201-206, 2016.11.
- [31] 土屋哲, 谷本圭志: 過疎地域のタクシー事業者による付随的サービスの供給可能性に関する概略分析, 交通工学論文集 Vol. 3, No. 2, p.A_280-A_286, 2017.
- [32] 土屋哲, 岩田千加良, 谷本圭志: 区間重複を考慮した地方都市部道路網の冗長性指標に関する一考察, 地域安全学会論文集 (登載決定)

3. 論文（査読なし，他）

4. 地域貢献

- [1] 中越大震災復興デザイン策定事業活動報告会アドバイザー，2009 年度
- [2] 公益財団法人 新潟県中越大震災復興基金，2011 年度
- [3] 土木学会 土木計画学研究委員会 学術小委員会委員，2013 年 11 月～2016 年 11 月
- [4] 鳥取県大規模小売店舗立地審議会委員，2014 年 12 月～現在

5. 外部資金

- [1] 2006～2007 年度，科学研究費若手スタートアップ研究，多地域応用一般均衡モデルと継続的復興状況調査に基づく大規模地震経済被害の計量化（代表），2,700 千円
- [2] 2008～2009 年度，科学研究費若手研究（B），産業内の垂直的連関性を考慮した地震経済被害計量モデル（代表），1,950 千円
- [3] 2008～2012 年度，科学研究費基盤研究（A），国際重要インフラの災害リスクガバナンス戦略（分担）
- [4] 2009～2011 年度，科学研究費基盤研究（C），過疎地域の自律的生活環境維持を支援する方略（分担・代表），4,680 千円
- [5] 2014～2016 年度，科学研究費基盤研究（B），ダブルネットワーク道路整備の社会経済分析とその効果計測手法の提案（分担）
- [6] 2015 年度，受託共同研究（鳥取市），鳥取市緊急輸送補助路線設定に関する調査研究（分担），500 千円
- [7] 2016～2018 年度，道路ネットワークの整備がもたらす広範囲なストック効果の計量化手法に関する研究（分担）
- [8] 2017～2019 年度，科学研究費基盤研究（C），小さな拠点での大きな循環を意図した過疎地域型インフラ整備戦略とその評価手法の開発（代表），4,680 千円

以上